

(別紙様式)

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

( )  
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

白石市立東中学校							
	1年	2年	3年	特殊	計	教員数	
学級数	4	4	4	0	12	24	
児童数	137	149	142		428		

・実践研究の概要

<p>・主題(テーマ) 確かな学力を身に付けた生徒の育成</p> <p>・テーマ設定の趣旨 現代社会をたくましく、生きていくためには「生きる力」が必要となってくる。「生きる力」をはぐくむには、まず知識と共に学ぶ意欲や自ら学び考える力を身に付けさせることが大事になってくる。 本校の生徒の実態や目指す生徒像の1つ「意欲をもち、根気強く学習する生徒」を育成するためにも、生徒一人一人に対するきめ細かな指導を行うことによって学ぶ意欲を高め、自ら進んで学習に取り組めるようにすることが必要であると考えられることから、本主題を設定した。</p>
---

・実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

・総務部の設立・運営

学力向上のためのきめ細かな指導を行うための指導体制を整えるために教育課程等を見直す機関として設立。

・実践指導部と教科部会の連携を持つ。

実践指導部には各教科の代表が参加し、各教科部会で具体的な実践研究を行えるようにした。(教科部会の定期的な開催)

( ) 実践研究の内容

1 基礎・基本を踏まえたきめ細かな指導について実践と工夫

(1) 数学科(1, 3年)・英語科(2年)における少人数指導

クラス分けの工夫

1学期...クラスを単純に2分割(出席番号順に半分・男女混合)して指導を行う。

## 2 学期...習熟度別クラス編制の実施

基礎コースと発展コースの2コースを作り、生徒全員に20分程度の少人数学習クラス編制診断テストと生徒本人の希望調査を行い、コース分けを行った。テスト結果と希望の合わない生徒については、学級担任、教科担任とのガイダンスを行った。2学期終了時にもコース変更希望者にガイダンスを行い、生徒が授業に意欲的に参加できるように進めた。

### 指導計画の見直し

数学科、英語科共に4～5名の教師で担当しているために授業でのポイントがずれないように評価規準と共に年間指導計画を見直し、それを基に授業を展開できるように工夫した。

### 年間指導計画の例（英語科第2学年）

#### 単元の指導計画と評価計画

単元名 Unit 4 Homestay in the United States

(New Horizon English Course 2) 7時間扱い

単元目標	1 have to, will, must, must not を用いた言語活動を通して友達や先生と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。						
	2 have to, will, must, must not を用いて、相手と問答したり、自分の意志を正しく伝えることができる。						
時	3 have to, will, must, must not を含む本文を読み、内容を理解することができる。						
	4 have to, will, must, must not の文構造とその運用についての知識を身につけるとともに、ホームステイを通してのコミュニケーションの重要性を理解する。						
ねらい	指導上の留意点	評価の重点				具体的評価規準	
		聞	話	読	書		
1	・ have to を用いた文の形、意味、表現を理解することができる。 ・ ホームステイについて知り、考える。	・ have to を用いた適切な文例を準備する。 ・ ホームステイについて経験者の話をさせる。 ・ have to の口頭練習を十分行う。	コ				・ ホームステイのガイドブックを聞き取り、内容について教師の質問に答えることができる。 ・ have to を用いて与えられた文を表現できる。 ・ Listen, Speak の欄を完成する。 have to を用いて自己表現できる。
			表				
2	・ have to の表現を運用することができる。	・ ワークシート「stating out」を用いて have to, don't have to を用いて自分のことを口頭で表現し、さらに書くことができるようにさせる。 have to, don't have to を用いて問答させる。	コ				・ ワークシートを用いて口頭で表現できる。 ・ ワークシートの空欄に適切な英文を書き込む。 自分が作った英文を用いて友達と問答できる。
			表				
			理				
			言				

### 指導法の工夫

習熟度別に少人数学習のクラス分けを行ったことで生徒の習熟度に合わせた指導法が必要になった。同じ教科書、同じ教材を使っている指導でも、教材、資料の提示の仕方を変えるなどしてコースごとの指導法を工夫していった。

・数学科1年基礎コース 「比例と反比例」 ワークシートを生徒の考えやす

く小さなプリントを作り回数を重ねて提示した。

- ・数学科3年基礎コース「三平方の定理」 導入段階で円錐を組み立てる実体験をさせた。
- ・数学科1年発展コース「比例と反比例」 分数でも比例として、考えられることを理解させてみた。

( ) 成果と課題

成果 ・1学期に行ったクラスを単純に2つに分けた少人数学習では、今までの授業と人数が減っただけであり成果が表れなかった。そこで、2学期には、習熟度別に生徒を分けてコース別学習(基礎, 発展)を行った。1, 2学期終了頃にそれぞれ1回ずつとったアンケートでは、「授業が分かるようになった」「少し分かるようになった」と答えている生徒が合わせて1学期に比べて10%多くなっている。特に英語2年基礎コースでは「分かるようになった」と答えている生徒が46%をしめ、生徒の実態に合わせたきめ細かな指導が行われることにより、生徒の理解度が高くなったと言える。

・意欲についても、1学期に比べて「高まった」「少し高まった」と答えている生徒が10%ほど増えている。分かることにより、意欲のほうも高まっていたと考えられる。

・発表・発言の機会については、「増えた」と答えた生徒が増えており、少人数学習をすることに、教師自身も慣れてきて、より生徒が活動する場面を授業の中で設定することにより、活発な授業が展開されていると思われる。

・以上のことから少人数学習を中心に行ってきた今年度の研究では、生徒の学ぶ意欲を育てるためには習熟度別の少人数学習は、従来の学習形態に比べて成果があると考えられる。

課題 ・習熟度別の少人数学習では、基礎コースの生徒の生き生きとした活動が見られるが、発展コースの生徒の変容があまり見られなかった。発展コースの生徒に対する指導の工夫が足りなかったと考えられる。

・生徒のアンケートを採ることで学ぶ意欲の変容を見ることはできたが、それ以外の学力について生徒がどのように変容したのかつかむことが不十分であった。学力検査以外にも、生徒の変容を見るための工夫が必要とされる。

・少人数学習は、学力向上のための方法の1つであり、更に学力を向上させるには、数学, 英語2教科から、5教科(国, 社, 数, 理, 英)に研究を広げることとした。学力向上の効果的な取組として各教科が具体的に実践を積み重ねていく必要がある。

( ) 成果の普及方策

- ・中間発表会 平成15年11月上旬 本校会場 白石市内の小・中学校教員対象
- ・公開発表会 平成16年度予定 詳細は未定
- ・自由参観日(学期1回程度), 東中だよりの発行 保護者対象
- ・ホームページでの研究内容公開
  - 平成14年度作成準備
  - 平成15年度に発信予定